

くらし シニア

発症リスク上昇「新厄年」

安心・安全

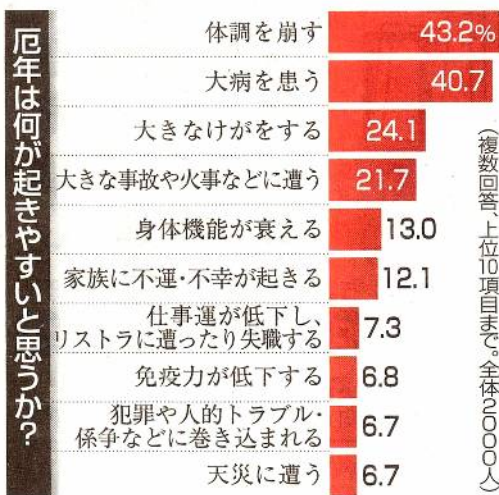
結ぶフロンシエクト

健康食品や医薬部外品を販売するエバーライフ社が、今春設立した「年齢研究所」(所長、板倉弘重茨城キリスト教大名誉教授)が、レセプトの膨大なデータを利用し、主要な疾患の性・年齢別発症率を分析、発症リスクが急上昇する時期を「新厄年」として発表した。

それによると、満年齢で男性は24、37、50、63歳、女性は25、39、

男性 24・37・50・63歳 女性 25・39・52・63歳

男女とも63歳が大厄



厄年は何が起きやすいと思うか?

52、63歳。板倉所長は「特に63歳は男女とも主要疾患の発症リスクが最も急上昇する年齢で『新大厄』と呼んでいいかと思う。注意し

レセプトデータから分析

てほしい」と話している。レセプトは、患者が受けた診療について医療機関が健保組合などに請求する医療費の明細書。2011年の1年間に受診した20〜73歳のレセプト約76万人のうち、脳血管疾患や虚血性心疾患、骨粗しょう症、糖尿病、がんなど7疾患を対象にグラフで分析した。現在厄年とされているのは、数え年で男性25、42(大厄)、61歳、女性19、33(大厄)、37歳。

分析とは別に、同研究所は今年8月、30〜60代の2千人を対象にインターネットで厄年に関する意識調査を実施。その結果、「とても

「やや」を合わせ約3人に1人(32・3%)が「気にしている」と回答。厄年のイメージを尋ねると(複数回答)、「体調を崩しやすい」「大病を患いやすい」が40%を超えて飛び抜けて多く、事故や不幸が起るよりは、健康を害しやすい年齢とみられていた。